

## 知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

### 1 団体名

(一財) 東京マラソン財団

### 2 実施日時

令和元年7月11日(木) 14時01分～14時17分

### 3 出席者

- ・団体側出席者：伊藤理事長、早野事業担当局長、  
小室スポーツ推進部長(オリパラ局)
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長、  
小林行政改革推進部長

### 4 議事概要

#### ○小池知事

東京マラソンで鍛えたボランティアの皆さんが、東京2020大会のシティキャストとして大きな役割を果たしてくれている。

これからもボランティア文化というものを、マラソン財団の大きなアセットとしてもらいたい。

全国的なランニング人口というのは減少しているのか。

#### ○伊藤理事長

1,000万人弱であったところが、今は900万人弱ぐらいになっている。

世界的な流れとしては新たなマラソンブームが来ており、おそらく右上がりになっていくと思う。

#### ○早野事業担当局長

今、アジアでは中国、タイ、台湾などでマラソン人口がものすごい勢いで増えており、300%ぐらいの勢いで伸びている。日本は少し先行したため、勢いが落ちそうなところを上げるべく、陸連でもいろいろ動きを起こしている。

#### ○小池知事

ユニフォーム等の衣類のリサイクルはどうしているのか。

○早野事業担当局長

ランナーは走るときは軽めで走りたいが、寒いのでギリギリまで着ていることから、洋服ポストを設けた。みんなが衣類をポストのように箱に入れ、それを財団が洗濯して、また使っていただくようなやり方をしている。

○武市財務局長

ボランティアの方々と、恒常的に交流などを行っているのか。

○伊藤理事長

ボランティアの方々を対象として、毎年、講習会を行っている。一つ大きな講習会としては、心肺停止に対する救急処置がある。積極的にボランティアの方が受けており、それも東京マラソンの魅力だと思っている。

○早野事業担当局長

今まで大会中に一人も亡くなっていないのは、メジャーレースの中では唯一。東京マラソンはランニングドクターやランニングポリス、1万2,000人のボランティアが沿道におり、その人たちが救命救急の資格を持っていたり、モバイルAEDがあったりなど、救命しやすい状況とするための対応をやり尽くしている。

○遠藤総務局長

バイスタンダーの養成という意味では、ボランティアの方もそうだが、ランナーの方をバイスタンダーにしていくのも良いのではないか。練習の最中に倒れて亡くなることが結構ある。河川敷を走っていれば、他のランナーが助けてくれるようなこともあるだろうから、そちらにも手を広げていくのが良いのではないかと思う。